

「野山の秋」
昭和廿年八月十五日、正坐して
大君の民にむかひて
あはれよと宣らす詔旨に
涕噴みたり
（「倭をくま」）
釈 遥空



築造当時の姿に復元された五色塚古墳の背後には、現代の街並みが広がる＝神戸市垂水区

ゼロから学んでおきたい

古墳

「百舌鳥・古市古墳群」

（大阪府）がユネスコの「世界文化遺産」に登録され、古代日本を特徴づける「古墳」が注目を集めている。同古墳群には「世界3大墳墓」の一つ大山古墳（伝仁徳天皇陵）も含まれるが、「古墳」の実像は意外と知られていない。

国学院大学で古墳の研究を続ける文学部史学科の青木敬准教授は、「古墳は3世紀半ばから6世紀後半にかけて権力者が作った墓で、墳形に円や四角を組み合わせた複数のパターンがあって序列化されている」と解説。さらに「埋葬だけでなく、埋葬に係わる儀礼の場としても用いられ、対外的に権力を誇示する効果を持つなど時代によって役割も変わった」と述べ、急速に力を蓄えた倭王権の動向や、東アジアのパワーバランスが古墳の形や大きさに投影されている点を指摘している。

一方、戦後の高度経済成長期以降に日本列島各地で進められた開発によって多くの古墳が姿を消した事実にも言及。「開発が前提の緊急調査が増えて発掘調査・研究が発展した事実はあるが、古墳が失われていった負の側面もあることを忘れてはいけない」とも話す。

さまざまな種類があり、そして複雑な側面をも併せ持つ「古墳」。お祝いムードだけでは無い観点で、ゼロから学んでみたい。

【4、5面に関連記事】

令和も日本を着る

「和装DAY」盛況

「いつもの場所で、日本を着る。」を合言葉に浴衣などで一日を過ごす令和初の「和装DAY」が7月5日、国学院大学の渋谷キャンパスで開催された。日本文化発信の一环として始まった「夏の風物詩」も



今年で5年目。学生らは七夕気分でも盛り上がるキャンパスライフを満喫しつつ、「和の心」に思いをはせた。「和装でOK」のこの日、浴衣姿で登校する学生以外にも、多くの学生が特別更衣室を利用。涼しげな和装で受講する学生がキャンパスに彩りを添え、写真、学生手作りの風鈴や風ぐるま、願い事を記した短冊、体育連合会運営の縁日が「国大の夏」を演出した。また、短冊を結びつけやすいように工夫した縦2m×横4mの「笹棚」が初お目見えし、注目を集めた。

夕刻には神話学が専門の平藤喜久子・研究開発推進機構教授が「七夕と天体の神話」と題して特別講義。中国から伝わった七夕の風習と世界や日本の神話や天体との不思議な関係についてエピソードを披露して締めくくった。**【2面に関連記事】**

みはるかすもの

戦国の風雲児・織田信長は、今川義元との桶狭間の戦いに臨む前に「人間五十年下天の内をくらぶれば、夢幻のごとくなり」と幸若舞「敦盛」の一節を舞ったという▼50歳ほどだった日本人の平均寿命は戦後、飛躍的に伸び、平成30年の最新発表では、男性が81・09歳、女性は87・26歳。戦後70年で男女ともに30歳ほど伸びた。100歳以上の人口は、昨年9月時点で7万人に迫る▼「人生100年時代」という言葉がもてはやされ、「健康寿命」や「資産寿命」という言葉とともにいのちを全うする術に注目が集まる▼江戸時代中期の上方で浮世草子とい

う一ジャンルを築いた井原西鶴。52年の生涯を終えるときに、「辞世人間五十年の究まり、それさえ我にはあまりたるに、ましてや」と前書きをし「浮世の月見過しにけり末二年」と句を詠んだ▼「寿命の50年を余分に2年も生きて、浮世の月を見てきた」という西鶴からすれば、人生100年は、余分に眺める浮世の月でもう一身分になる。「人間五十年」の延長線上にある価値観や既成概念が崩れつつあるのではないか▼経団連が、新卒一括採用の廃止を発表し、終身雇用、年功序列といった日本型雇用とも呼ばれるシステムの見直しを迫る。社会保障や福祉の先行きにも不安が広がるが、やみくもに悲嘆にくれるのではなく、冷静に現実を直視しなければ未来はない。「人生100年時代」の新しい価値感を創り出さねばならない時だ。

浴衣姿で星野光樹・神道文化学部専任講師の特別授業を受講する学生



和装DAY

「日本の心」に触れる「国大の夏」

カラコン、カラコン、カラコン。涼しげな下駄の音が響く「和装DAY」。渋谷キャンパスは浴衣を着こなした学生らが行き交い、「日本の心」に触れる「国大の夏」ならではの一日を過ごした。

▽**手作り演出** キャンパスを彩る七夕飾りなどはボランティア学生が手作り。透き通った音色の風鈴や風ぐるまが雰囲気を盛り上げ、授業の合間に足を止めて聞き入る学生も。一方、笹に結ばれた短冊には「優しいカレンシが欲しい」「単位をください」「食べたい」「太りませんように」など飾らない学生の願いが書き込まれていた。

130周年記念5号館ピロティには恒例の縁日屋台が登場。企画・運営にあたった体育連合会の木村駿治さん(史4)は「国大ならではのイベントを通じて、在学生にも一般の人にも国大の良さを再認識してもらえたら」と手作りの演出に思いを込めた。

▽**いつもの教室でWASOU授業** 総合学修館(6号館)では、和装の交換留学生15人が「日本語」を受講。台湾からの黄予函さんは「帯が苦しいけれど、いつもと違う気分が授業が聞けた」と満

足げ。英国からのジェイソン・デイルさんは「初めて浴衣を着たが気に入った。帰国しても着たい」と目を輝かせ、「日本の文化をもっと勉強したくなかった」と決意も新た。「箸と風呂敷(の端布)とイヤリングで作った」というオリジナルのかんざしで独自色を出すイタリアのフェデリコ・ズビネルさん。「かっこいい!」との評判に「ありがとう」とこやかに答えていた。

一方、午前中の特別授業「神話と七夕」を受講した柳原千海さん(法2)は「地元で浴衣を着るとは初めて。新鮮でワクワク感も高まった」と話していた。

▽**七夕のとおおき** 夕闇が迫る渋谷キャンパス5号館ピロティで行われた平藤喜久子・研究開発推進機構教授の特別講義**II写真**。中国の七夕伝説が発祥の織姫と日本神話の天照大神を取り上げ、「機織りをする



るのが両者の共通点。機織りとは運命や時間を紡ぐことを指し、どちらも重要な役割を果たしている」と指摘。さらに天照大神の弟神・月読命(よみ)について、「万葉集に若返りの水である『をち水』との絡みで詠まれている」と述べ、「月に關しては『竹取物語』で不死の薬を富士山で焼いてしまう話がある。月は不死に通じ、富士信仰にもつながっている」と紹介した。受講した学生らは、中国の七夕伝説から世界や日本の神話、天体へと広がる話題に感銘を受けた様子だった。



平成30年度から施設の老朽化などにより改築工事を行っていた叢隠寮(神奈川県箱根町)では、工事が終了し7月5日、本格的な利用開始を前に清祓祭が斎行された。叢隠寮は折口信夫(秋道空)の別荘であった叢隠居を昭和33年に国学院大学が譲り受け、これを保存するとともに宿泊施設を増築。教職員や院友が利用できる厚生施設として運用していた。

今回行われた全面的な改築工事により、地上2階地下1階建ての本館と、折口信夫の書斎を復元した「折口博士記念館」**II写真上II**が竣工。本館には3つの居室**II同下II**と2つの大浴場、食堂などが整備された。

叢隠寮の利用は、9月から申し込みを受け付け、10月から始まる。申し込み方法などの詳細は、人事課(☎03-5466-10105/FAX03-5466-10306)まで。

9月から申し込み開始に

叢隠寮がリニューアル

夏越の大祓を執行



夏越の大祓が6月29日、神殿前庭で執行された。佐柳正三理事長をはじめ教職職員、学生が多数参列。知らず知らずのうちに心身に積もる半年間の罪穢れをお祓いした。

特別推進研究助成金に6人が採択



特定課題による研究を助成し、学術研究の発展に資することを目的とした特別推進研究助成金制度に本年度は6人が採択された。採択者には6月19日、針本正行学長から交付決定通知書が手渡された。採択者は次の通り。

- ◆**文学部** = 井上明芳教授、牧野格子准教授、松谷容作准教授
- ◆**経済学部** = 本田一成教授
- ◆**神道文化学部** = 松本久史教授
- ◆**人間開発学部** = 原英喜教授

2つの「渋谷らしさ」から地域の歴史を学ぶ 渋谷区民大学講座



令和元年度の「渋谷区民大学講座」が6月22日、渋谷キャンパス常磐松ホールで開催された。今回のテーマは国学院大学が提唱する「渋谷学」で、文学部の手塚雄太准教授が「『渋谷らしさ』からみた渋谷の歴史」と題して講義した**II写真**。

手塚准教授は、明治から平成までの渋谷を考えるキーワードとして、①渋谷駅周辺の盛り場②文教・住宅地区一の2つの「渋谷らしさ」を提示。練兵場設置によって軍隊向けの盛り場が発展したことや、日露戦争終結後と関東大震災後という2つの画期で人口が急増したことを解説しつつ、現在も2つの「渋谷らしさ」がせめぎ合いを続けていると指摘し、「歴史評価が定まる30年後が楽しみ」とまとめた。

鳥居泰彦元理事 逝去

慶応義塾の元塾長で学校法人国学院大学元理事の鳥居泰彦氏が7月1日逝去。82歳。通夜は5日午後6時、葬儀は6日午前11時、青山葬儀所(東京都港区)で行われた。喪主は長女の茜月氏。

鳥居氏は、平成5~13年に慶応義塾の塾長を務めたほか、文部科学省中央教育審議会の初代会長、日本私立学校振興・共済事業団理事長なども歴任。23年4月に学校法人国学院大学理事に就任し、今年4月に任期満了により退任した。

教職員人事

退職(自己都合)
◎大学事務局◆専任▽轡田勝嵩(総合企画部 入学課書記)

院友経済会 ビジネス塾を開塾 働く院友に役立つ場に



経済学部・旧政経学部の卒業生団体「院友経済会」では、現代の経営・経済の最先端のトピックスから仕事やキャリアアジェンダに必要な知識、異業種交流に基づく人的ネットワーク構築の機会提供を目的として新たに「ビジネス塾」を開くこととなり6月22日、渋谷キャンパスで開塾特別講演会が行われた。会場には、院友や経済学部生ら約300人が集まり、活動への期待感がうかがえた。

塾長に就任した秦信行名誉教授は「長年、学生と卒業生をつなげ、ビジネス界で働く方に役立つ仕組みができていかと考へて、今回ビジネス塾として結実することになった。継続して会を続けていきたい」と開塾を宣言し写真撮影は「院友経済会の今年の大塚勤会長最大のテーマはビジネス塾



を開塾すること。今日ここに開塾することができ、会員一同喜んでいゝ」と述べた。

続いて開塾特別講演会が行われ、柳川範之東京大学教授が「これからの企業と働き方」と題して講演し同上。柳川氏は「急速に社会環境が変化し、過去の延長線上に明日はない」とし、新しい時代に見合った人生設計や働き方を組み立てる必要性を説いた。将来に向けて帰属組織や、人的ネットワークを作ることが必要だとし、「コミュニケーションを多く作ることが財産になり、変化の激しい時代の中で強みになる」と講演を締めくくった。

北澤豪客員教授が講演 「自分なりの哲学を」



日本サッカー協会理事で日本障がい者サッカー連盟会長の北澤豪客員教授を招いた水曜講座が7月3日、渋谷キャンパス常磐松ホールで行われた。

Jリーグ創設期から日本代表、ヴェルディ川崎（現東京ヴェルディ）で活躍した北澤氏は現在、国内外で人権擁護活動のほか、障がい者サッカーの普及活動などを続けている。

「多様化する社会の中で、どうチャンスを作り出していくか」と題した今回の講演では、自身の競技人生やサッカーを通じた開発途上国支援、障がい者サッカーに関する取り組みを紹介。チャンスをつかみ取るために「物事をポジティブにとらえる習慣を身につける」ことや「自分自身のマネジメント」が重要とし、「実践を通して気付き、自分なりの哲学を作りたい」と聴講した学生たちにエールを送った。

セメスター留学生 11人に 学習奨励金を授与

平成30年度に英語圏・中国語圏の協定校で実施した4カ月間に及ぶセメスター留学に参加した学生のうち、高いレベルでの外国語コミュニケーション能力を獲得した11人の学生に学習奨励金が送られることになり、目録の授与式が6月28日、渋谷キャンパスで行われた。

岩瀬由佳国際交流推進部長（文学部教授）は出席した学生を前に「これから就職活動などで頑張ることが多いと思うが、セメスター留学の頑張りを思い出しつつ一層の努力をしてほしい」とあいさつ。学生一人一人に目録を手渡した。

初の経済教養講座 渋沢栄一の事績に学ぶ



新一万円札の肖像に採用されたことで話題となった実業家、渋沢栄一について学ぶ経済教養講座「令和新時代に学ぶ渋沢栄一とその事業」が6月29日、渋谷キャンパスで行われた。

同講座は今回が初の試みで、日本経済史が専門の杉山里枝・経済学部教授が担当した。

講座は本学の3・4限の授業時間帯に90分の講義を連続して2回行う形式。第1部では渋沢栄一の経歴から、若い頃に学んだ『論語』をもとに醸成された「合本主義」や「道徳経済合一説」など日本の近代化に大きく貢献した理念について、第2部では企業や社会事業のケーススタディーを通して、渋沢栄一が関わった500の企業や600もの事業について学んだ。

受講者は3時間に及ぶ長講ながら、渋沢栄一の人生や成し遂げた事業の数々について最後まで熱心に耳を傾けた。



佐伯有義

神祇や祭祀、神社の歴史を対象とした神道学研究の礎を築いた人物の一人に、佐伯有義がいる。佐伯による神道学研究の特徴は、古典の考証（文献）と祭祀の奉仕（実践）という、二つの軸にある。

佐伯有義 神道学研究の基盤を整えたパイオニア

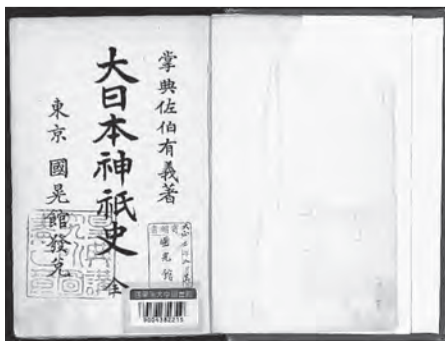
●明治・大正・昭和を生きた研究者秘話

学問ノ道 第18回

佐伯有義は、江戸末期の慶応3（1867）年、富山県の立山・雄山神社の祀職家に生まれた。本学の母体である皇典講究所が創立された明治15（1882）年に上京、就学後は主に国学者・井上頼因に師事する。20年の卒業後は、日本史研究の基礎資料ともいえる『古事類苑』の編纂事業に携わり、古典考証を中心に神祇部などに尽力した。

大正15年の退官後、昭和2年に本学講師、11年に教授となり、戦時下の19年に実質退職するまで、本学の学生教育と神道研究の発展に尽力した。

佐伯は神道研究の基礎資料『神祇全書』（全5巻・明治39（1914）年の編集校訂や、『神道大辞典』（全3巻・昭和12（1937）年の監修を担当するなど、研究基盤の整備に大きな役割を果たす。そこには、佐伯が祭祀と向き合う中で得た神祇・神社への理解や意識が反映されていた。まさに「古典研究」「文献」と「神職養成」「実践」を創立目的とした皇典講究所の在り方を体現したような研究姿勢であり、それは今後も継承・発展すべき、本学ならではの学びの道の一つなのである。



『大日本神祇史全』（皇典講究所旧蔵）

研究開発推進機構助教 吉永博彰

10年をかけて復元された五色塚古墳。墳丘の斜面は石で覆われ、周囲には埴輪が並べられている＝神戸市垂水区

「鍵穴形」と形容される独特のフォルムを持つ前方後円墳。歴史の授業で学んだ「古墳時代」という歴史区分は、この特徴的な古墳が造られた時代を指すという。いまや世界的な注目を集める「古墳」の実像を、青木敬・文学部准教授に解説してもらおう。



古墳とは、簡単にいってしまえば「昔の偉い人のお墓」だが、埋葬以外の役割が大きい点にも注目したい。古墳の上や周囲では被葬者に対する儀礼が行われ、周辺には埴輪(※1)が立ち並ぶ。被葬者の活動などを埴輪のジオラマで残し、生前を顕彰する意味合いも古墳には込められているのだ。しかも、その変遷は古代・倭王権(※2)の動きや王権を取り巻く外交環境などと連動しており、古墳を研究することで当時の東アジアの動向まで見通すことも可能なのだ。

3世紀半ばから6世紀末にかけて、日本列島各地で前方後円墳が作られた時代を指して「古墳時代」と呼ぶ。前方後円墳の原形は弥生時代に遡るが、大王の出現に合わせて巨大化した。そのほしり奈良県桜井市にある纏向遺跡(※3)の中に作られた箸墓古墳とされる。箸墓古墳は纏向の集落から間近に造られ、住民が常に眺めることで「われわれには巨大な墓を築く力がある」という意識を持たせ、共同体の結束力を増す意味合いが強かった。実は、西日本の各地に箸墓古墳などの「そっくりさん」が数多く確認されているが、これは王権が地方の有力者とのつながりを示す証しとして同形の相似墳を造らせていたのだ。王権と一定程度の関係があり、設計図や技術者を派遣してもらえり勢力が各地にあったということだろう。しかし、この段階では古墳が持つ影響力はほぼ列島内部にとどまっていたといえる。

それが、1000年ほど後の百舌鳥・古市古墳群の頃になると400mを超える巨大古墳が出現する。その当時、朝鮮半島を中心に東アジア情勢が緊迫の時代(※4)を迎え、高句麗の南下政策にともない倭王権の権益も危うくなるうとしていた。王権としても武力増強のために鉄資源や馬を輸入する必要に迫られ、倭王権のもとを訪れる人々に強大な権力の存在を誇示する巨大古墳を造るようになったと考えられる。集落内なら300mで十分だが、大阪湾など遠方から見ても圧倒させるには400m級が必要というわけだ。古墳を考える上で「形」も重要になってくる。数ある形Ⅱ解説図参照Ⅱの中で最もポピュラーと思われる前方後円墳は数千基ほどしかなく、9割は円墳や方墳など小さな古墳が占めている。ただ、数が少ないからこそ前方後円墳が古墳の序列の一番上に君臨するともいえる。副葬品の質と量が充実してい

る点も前方後円墳が古墳のランク上位であることを裏付けている。前方後円墳を造ることが許されなかった階層の人々は、円墳など小規模な墓を造ることになる。帆立貝形古墳というタイプもあって、4世紀後半ぐらいから目立ってくるが、これは倭王権が各地の有力者層をさらに序列化するため新しく創り出した墳形と考えられる。このように変貌を遂げてきた古墳も、6世紀の終わりを迎えると象徴的だった前方後円墳が姿を消してしまふ。王権の統治システムが整い、墳形や大きさを政治秩序を示す必要性がなくなったためだろう。ただし、前方後円墳が消滅した後も、古墳自体は造られ続けた。こうした古墳を終末期古墳と呼んでいる。

百舌鳥・古市古墳群が世界文化遺産に登録されたことは喜ばしい。しかし、戦後の高度成長期以降の開発によって多くの古墳が姿を消していったという事実も忘れてはならない。それらの緊急調査が相次いだことから、調査成果が考古学の発展に寄与したことは確かだが、壊されてしまった古墳は二度と元には戻らない。古墳が文化財保護の重要性を考えるきっかけとなることを願っている。古墳の姿は？と聞かれて、多くの人はこんもりとした森に覆われた姿を思い浮かべるだろう。しかし、あの姿は近代以降に地元との関係が断ち切られたために出来上がった例が多く、古墳の原風景ではない。列島には、今でも地元民が大切に守り伝えている古墳も現存する。そのような古墳に触れ、古墳の実像を実感してもらえ

用語解説

※1 埴輪 古墳の墳丘や周囲に並べられた素焼きの土製品。弥生時代後期の古備で作られた特殊器台が起源とされる。はじめは円筒埴輪や朝顔形埴輪が主であったが、のちに家や武具、動物、人物などをかたどった形象埴輪も作られるようになった。

※2 倭王権 古墳時代(3世紀後半～6世紀末)に奈良盆地に勃興した王権。大王(後の天皇)を頂点とし、各地の豪族と連合して勢力を拡大した。稲荷山古墳(埼玉県行田市)から出土した鉄剣にはワカケル(雄略天皇)とのつながりを示す銘文が刻まれており、5世紀後半には東日本まで勢力を拡大して

り示す証しとして同形の相似墳を造らせていたのだ。王権と一定程度の関係があり、設計図や技術者を派遣してもらえり勢力が各地にあったということだろう。しかし、この段階では古墳が持つ影響力はほぼ列島内部にとどまっていたといえる。

それが、1000年ほど後の百舌鳥・古市古墳群の頃になると400mを超える巨大古墳が出現する。その当時、朝鮮半島を中心に東アジア情勢が緊迫の時代(※4)を迎え、高句麗の南下政策にともない倭王権の権益も危うくなるうとしていた。王権としても武力増強のために鉄資源や馬を輸入する必要に迫られ、倭王権のもとを訪れる人々に強大な権力の存在を誇示する巨大古墳を造るようになったと考えられる。集落内なら300mで十分だが、大阪湾など遠方から見ても圧倒させるには400m級が必要というわけだ。古墳を考える上で「形」も重要になってくる。数ある形Ⅱ解説図参照Ⅱの中で最もポピュラーと思われる前方後円墳は数千基ほどしかなく、9割は円墳や方墳など小さな古墳が占めている。ただ、数が少ないからこそ前方後円墳が古墳の序列の一番上に君臨するともいえる。副葬品の質と量が充実してい

ゼロから学んでおきたい古墳

「お墓」から東アジアが見える 青木敬・文学部准教授に聞く

ゼロから学んでおきたい古墳(拡大版)は、本学ホームページ内「国学院大学メディア」に掲載。



◆全国におよそ16万基 文化庁がまとめた「周知の埋蔵文化財包蔵地数」(平成28年度版)によると、全国で15万9千6百36基の古墳、横穴が確認されている。都道府県別では、①兵庫県1万8千851基②鳥取県1万3千486基③京都府1万3千016基④千葉県1万2千765基⑤岡山県1万1千810基の順。

◆群集墳が面白〜! 一定の範囲に中・小規模の古墳が同時多発的に造られた古墳群を「群集墳」と呼び、兵庫県や千葉県に古墳群を押し上げる主人公になっている。国学院大学が調査を続ける穂高古墳群(長野県安曇野市)も群集墳だが、当時導入されて日も浅い技術でもある「馬の飼養」との関連を示す出土品が確認されている。飼養の技術を持った人々が移り住み、土着の勢力とは別に群集墳を造った可能性もある。

◆海から見せて驚かせる 百舌鳥・古市古墳群の巨大古墳は海や古代の幹線道路から400mを超す長辺が見えるように造られている。見え方まで意識するとなんと単なる「お墓」ではない。明石海峡に臨む五色塚古墳(神戸市)では墳丘斜面を覆う葺石に對岸の淡路島から運ばれた石を使っており、海峡一帯に及ぶ勢力を誇示している。

◆百舌鳥・古市古墳群って? 大阪府南部の堺市と羽曳野市・藤井寺市に点在する90基ほどの古墳群。古墳時代中期の4世紀後半〜5世紀後半に作られ、墳丘長が400mを超える菅田御廟山古墳(伝心徳天皇陵)、大山古墳(伝仁徳天皇陵)などの天皇陵も含む。世界文化遺産の対象には大山古墳など49基が選定された。

◆前方後円墳 円形の墳丘に方形の突出部がつながり、上空から見ると鍵穴形。3世紀中頃〜6世紀末に築造され、日本独自かつ代表的な墳形として知られる。百舌鳥・古市では 大山古墳(伝仁徳天皇陵、墳丘長486m)、菅田御廟山古墳(伝心徳天皇陵、同425m)、上石津ミサンザイ古墳(伝履中天皇陵、同365m)など

◆円墳 平面形が円形で、古墳時代を通じて築造され、直径数m〜100m前後の中・小型が多い。奈良市の雷雄丸山古墳(直径約110m)が最大とされる。百舌鳥・古市では 青山古墳(同62m)、大安寺山古墳(同62m)、茶山古墳(同56m)など

◆方墳 墳丘の平面形が方形で、正方形だけでなく長方形を呈するものもある。奈良県橿原市の樹山古墳(1辺85m)が全国1位。百舌鳥・古市では 鍋塚古墳(同63m)、向墓山古墳(同68m)、浄元寺山古墳(同67m)など

◆帆立貝形古墳 円丘に小さく低い方形の墳丘が付属し、平面形が帆立貝形になるタイプ。その前方部の特徴から、前方後円墳とは区別される。百舌鳥・古市では 丸保山古墳(同87m)、錢塚古墳(同72m)、孫太夫山古墳(同65m)など



古墳アラカルト

インフォダイジェスト

... 在学生
 ... 保護者
 ... 卒業生
 ... 一般
 ... 受験生
 内容
 日にち
 時間
 場所
 対象
 申し込み
 料金
 問い合わせ

大学からの お知らせ

第3回古事記アートコンテスト作品募集

内 国学院大学古事記学センターでは、一般財団法人神道文化会との共催で「第3回古事記アートコンテスト」を開催します。「大学生」「高校生」の2部門で、『古事記』に関する絵画・イラストを募ります。

【応募締切】11月30日(土) (当日消印有効)

【応募条件】

- ▶ 高校生部門は全国の高校在籍者、大学生部門は全国の大学・短大・専門学校・大学院在籍者であること
- ▶ 作品は自作未発表のもので1人1点とし、A1サイズ(594×841ミリ)以下でP・C・手描きは問いません

【応募方法】詳細は古事記学センターHP (<http://kojiki.kokugakuin.ac.jp/>)

博物館

料無料
時 10時～18時(入館は17時30分まで)
8月13日(火)～22日(木)、26日(月)～30日(金)は休館

特集展示「覇者たちの中世」

内 鎌倉時代から安土・桃山時代までの権力者や関連人物の古文書を展示します。国の重要文化財「久我家文書」(国学院大学図書館所蔵)も公開されます。織田信長や豊臣秀吉、徳川家康など歴史上の偉人ゆかりの文書を目にするチャンスです。

日 8月25日(日)まで

場 博物館 校史展示室

※博物館に関する問い合わせは
☎03・5466・0359

を確認してください。

固 高校生新聞社 第3回古事記アートコンテスト係
☎042・724・2750、
☎042・724・2860、
✉contest2019@sclpa.jp

第4回 渋谷区長への政策提言を募集します

内 本学では渋谷区との連携協力に関する基本協定に基づき、長谷部健区長に学生ならではの政策提言を行っています。4回目となる今回のテーマは『「ロンドン、パリ、ニューヨーク、シブヤク」の実現-2020年東京オリンピック・パラリンピックが目前に迫っているなかで-』です。奮ってご応募ください。

【応募】提言方法はパワーポイントを用いた10分間のプレゼン。提言資料をスライド6枚(表紙含む)にまとめてメール添付で事前提出してください。

【表彰】区長賞、学長賞(各賞金5万円)

※学内選考を経て、10月30日(水)に有栖川宮記念ホールにて提言してもらいます

固 本学の学部生、大学院生
日 9月25日(水)17時までにエクステンション事業課✉(jigyuu@kokugakuin.ac.jp)へ

固 エクステンション事業課
(☎03・5466・0791)

各種学内奨学金の願書配布

- 内 ▶ 国学院大学修学支援奨学金(後期・年額15万円)
 - ▶ 弘田ふるさと奨学金(年額70万円)
 - ▶ カピー奨学金(年額30万円)
 - ▶ あすなろ奨学金(年額30万円)
 - ▶ 田村祥浩君記念奨学金(年額15万円)
- ▶ 国学院大学留学生奨学金(年額

- 20万円限度)
- ▶ 教育ローン利子補給制度(年額5万円限度)
- ▶ 教職支援奨学金(年額20万円限度)

日 9月17日(火)まで
固 学生生活課(☎03・5466・0145)か、たまプラーザ事務課(☎045・904・7705)で

※全て単年度採用のため、前年度受給者でも出願が必要です。詳細は大学HPで確認を

夏期休暇中の事務休止日および事務取扱時間について

下記の期間、大学事務を一齐休止します。夏期休暇中の事務取扱時間については、大学HPまたは掲示で確認してください。

日 7月25日(木)～9月19日(木)(土)・(日)・(祝)、8月10日(土)～22日(木)、9月14日(土)～17日(火)

後期授業開始について

学部・専攻科・別科・大学院の後期授業開始は9月20日(金)です。学年暦については学生生活ハンドブックや大学HPで確認してください。

本学が参加予定の進学相談会(8～9月開催)

内 国学院大学では、8～9月に各地で開催される進学相談会に参加予定です。本学への進学をお考えの受験生・

保護者の方はぜひご来場ください。

日・時・場下表参照

イベント 30

第27回 万葉の花の会講演会

固 「令和」の典拠となったことで改めて注目される『万葉集』。本学では、日本最古の和歌集である『万葉集』を通して自然や文化に親しむ講演会を長年にわたって開催しています。今年も毎回好評の「万葉弁当」と「万葉の花ごよみ」(カレンダー)も準備し、参加をお待ちしています。

日 9月6日(金)
時 9時40分～15時(9時受付開始)

場 たまプラーザキャンパス講堂

料 一般2000円、学生1500円(資料代・通信費含む)

※万葉弁当代(1000円)は当日受付時に受講票(返信はがき)を提示の上、お支払いください

日 8月23日(金)までに、往復はがき(郵便番号・住所・氏名〈フリガナ〉・電話番号・万葉弁当の要・不要を記入)で、〒150-8440東京都渋谷区東4-10-28 国学院大学気付「万葉の花の会」へ。先着432人
※はがきは1人につき1枚

固 神道研修事務課
(☎03・5466・0155
☎03・5466・0163)

進学相談会一覧(8～9月開催分)

都道府県	都	市	会場	日付	時間
神奈川県	横浜	横浜	横浜新都市ホール(そごう)	8月31日(土)	13:00～17:00
			パシフィコ横浜	9月29日(日)	10:00～16:30
長野県	長野	長野	ホテルブエナビスタ	9月3日(火)	15:00～18:30
			ホテルメルパルク長野	9月4日(水)	15:00～18:30
栃木県	宇都宮	宇都宮	マロニエプラザ	9月4日(水)	14:30～18:00
			ホテル日航熊本	9月11日(水)	15:30～18:30
鹿児島県	鹿児島	鹿児島	ジェイドガーデンパレス	9月13日(金)	14:30～18:30
			アダストリア みと アリーナ	9月13日(金)	14:30～18:00
福岡県	福岡	福岡	ソラリア西鉄ホテル	9月17日(火)	15:00～18:30
			高崎アリーナ	9月19日(木)	15:00～18:30
北海道	札幌	札幌	つどいむ	9月25日(水)	10:00～16:00
				9月26日(木)	10:00～16:00

「ご家族、友人と母校に集う一日」国学院大学 ホームカミングデー

10月19日(土)開催決定
渋谷キャンパス、たまプラーザキャンパス(人間開発学部)

新企画も続々!! 9月下旬申込受付開始。
最新情報は、SNSで随時配信中。

[Facebook] <https://www.facebook.com/kokugakuin.hcd/>

[Instagram] https://www.instagram.com/kokugakuin_homecomingday/



Facebook

Instagram

ホームカミングデーHP



共同研究としての神社研究

筆者が所属する研究開発推進センターでは、「建学の精神」に基づく神道・国学を対象とする共同研究の推進、その研究マネジメントを主要な業務の一つと位置づけている。

若木が丘 だより

研究開発推進機構 准教授
宮本 誉士



そのため、幾つかの研究事業を同時並行で進めていくこととなる。それらを推進するための交渉や連絡、書類作成など、研究事務に従事する時間の方が圧倒的に多いことも事実であるが、結果として、未見の資料や人々と出会うことが何よりも有難く、新しい知見を得ることほど、嬉しいことはないと思う。

ここでは、筆者が従事する研究事業の一部として、「霧島神宮の研究」(平成28年度以降実施)、「北海道神宮の研究」(平成29年度以降実施)の一端を紹介したい。いずれも研究開発推進センターへの依頼に基づく研究事業であり、本センターの専任教員と神社関係者、学外研究者との共同研究として実施されている。事業の目的は、神社創建以降の歴史をそれぞれ明らか

佳境を迎えたところである。なお、本年度からは、東京都港区に鎮座する乃木神社の研究を実施することが決定している。今後、3年間の研究事業として、資料の調査・検討を進め、その成果として神社誌を編纂することとなる。また、多くの未見なる資料や人々との出会いを求めて、研究事務、そして共同研究を進める日々が続いていく。

本年度は、これらの調査・研究の成果としての神社誌をそれぞれ刊行する予定であり、現在、編集作業の

にすべく、神社を支えた人々・地域・社会との繋がりを含めて調査を進め、その成果として神社誌を編纂することにある。研究事業の一環として、貴重な神社所蔵資料をはじめ、多くの資料と出会う機会を得て、それらを基に議論を行い、神社誌編纂を進めていくのである。ここに、共同研究による新しい知見も生み出されていくこととなる。

若木体育祭 スポーツで交流深める



第58回若木体育祭が6月16日、たまプラーザキャンパスで開催された。若木体育祭は学生の実行委員会が企画して行われ、クラスや部会、サークルの仲間同士で参加した学生たちは、フットサル、バスケットボールなどで白熱した戦いを繰り広げた。

来年の東京パラリンピックの正式種目に採用されているゴールボールやポッチャも企画され、多くの学生が参加した。

団体・個人の成績



硬式野球部 = 各大学野球のリーグ戦で出場機会の少なかった4年生選手を中心としたトーナメント大会「第3回Mature Cup」が7月6～7日、日本体育大学健志台球場（横浜市青葉区）で開かれ、硬式野球部が3連覇を果たした。

日本体育大学との決勝では、1点を追う6回、井古田拓己選手（健体4）＝写真＝の適時三塁打などで逆転。8回には5本の安打などで7点を挙げ、9-1でコールド勝ちを収めた。

卓球部 = 全日本大学総合卓球選手権大会・団体の部が7月4～7日、スカイホール豊田（愛知県豊田市）で行われ、卓球部女子がベスト16に入った。

予選リーグを1位で通過した本学は、決勝トーナメント1回戦で福岡大学を3-1で退けたが、関東学生リーグで同じ2部に所属する東洋大学との2回戦で敗れ、2年連続のベスト8進出はならなかった。

男子も予選リーグを通過し、決勝トーナメント1回戦で、関東学生リーグ1部所属の格上・筑波大学に挑んだが0-3で敗退し、7年連続のベスト16は果たせなかった。

強化部会主なスケジュール (8、9月)

柔道部 = 東京学生柔道体重別選手権大会（男子38回、女子35回）〔8/17（土）・日本武道館〕、全日本ジュニア体重別選手権大会〔9/14（土）～15（日）・埼玉県立武道館〕、全日本学生柔道体重別選手権大会〔9/28日（土）～29（日）・秋田県立武道館〕

剣道部 = 第68回関東学生剣道優勝大会〔9/15（日）・川崎市とどろきアリーナ〕、第45回関東女子学生剣道優勝大会〔9/23（月祝）・東京武道館〕

卓球部 = 関東学生卓球秋季リーグ戦 男女各2部〔9/11（水）・和光市総合体育館、12（木）～13（金）・所沢市民体育館〕

ソフトテニス部 = 第73回全日本大学対抗ソフトテニス選手権大会〔8/6（火）～7（水）・盛岡市立太田テニスコートほか〕、第74回全日本学生ソフトテニス選手権大会〔8/8（木）～9（金）・同〕、第61回全日本学生ソフトテニスシングルス選手権大会〔8/9（金）～10（土）・同〕

七人七様、 伝統と向き合う

観月祭の舞楽に挑む



節目の10回目を迎える「観月祭」。10月19日の祭当日に披露される舞楽には、舞台上立つ舞人や楽人に裏方も含めて100人を超す学生が関与するといひ、渋谷キャンパスでは5月から稽古が始まっている。

毎週木曜日の午後、120周年記念1号館の和室教室に7人の学生が集合する。祭で披露する舞楽「賀殿急」の稽古に参加する面々だ。指導する小野舞楽会員の佐藤健三講師曰く、「この舞は『打入れの手』という手の動きが肝心。数カ月という短い期間だが、皆しっかりとやってくれている」。全員が鏡に向かって立ち、佐藤講師の舞をなぞっていく。

参加者は学内のサークル「青葉舞楽会」で会長を



ソフトテニス部

初の全日本大学王座は予選敗退 東日本シングル 谷岡選手が2位

全日本大学ソフトテニス王座決定戦が6月8～9日、北海きたえーる（札幌市）で行われ、全国9ブロックと韓国、台湾の強豪校が集まった。5月に行われた関東学生リーグで初優勝し出場権を獲得した本学は、予選リーグで1勝1敗となり、ベスト4進出はならなかった。

東日本学生ソフトテニスシングルス選手権が6月30日、千葉県白子町で開催された。478人がエントリーした男子の部で、今年3月の関東シングルス選手権大会で優勝した谷岡凌太郎選手（健体3）が各大学有力選手との激戦を制して決勝まで勝ち上がり準優勝に輝いた。同大会での表彰台は本学初の快挙。このほか、下田好輝選手（史1）がベスト16、小出尚典選手（史2）がベスト32に進出した。

務める佐々木祥樹さん（神文3）ら神道を学ぶ6人に加え、門外漢、の伊澤直生さん（史3）まで多彩だが「本番の舞台に立ちたい」という思いが強いせいか、張り詰めた雰囲気稽古が進む。2時間ほどの稽古を終えると、スマートフォンで録画した動画を再生しながらの反省会。動画は各人が共有し、帰宅後の自主トレにも役立てるといふ。

「誰かのために祈るという素晴らしい神道の全てを吸収したい」という山口裕美さん（神文2）は前回舞った「五常楽」との違いに戸惑いながら熱心に学ぶ。小学生時代から舞楽に接してきた前田奈緒さん（神文1）は「やはり大学生はレベルが違う」と気を引き締める。1、2年次は裏方として関わってきた玉川明日菜さん（神文4）は「学生時代にしかできないことだから」と一念発起し舞楽に挑む。

1、2年次は楽器を扱う楽人として参加した岡田彩さん（神文3）は「今年こそと再チャレンジ」と熱心に稽古に通う。動画撮影なども厭わない吉田麻那さん（神文4）は「バレエやダンス経験があるので軸はしっかりしていると思うが、舞楽は難しい」と話す。

本番の舞台に立てるのは、稽古の成果を見て選抜される限られた学生のみという厳しい世界。それでも日本の伝統に向き合う7人は「一緒に舞う人や楽人がピッタリと揃うところが舞楽の魅力」と異口同音に語ってくれた。

このほか東日本大学対抗大会（6月29日）で男子はベスト16、女子がベスト8。同ダブルス選手権（7月3日）では、男子の濱野達哉選手（健体4）・佐藤勇乃介選手（経3）ペアのベスト8が最高だった＝写真。



K:DNA——創立137年目を迎えた国学院大学の**遺伝子**…個人・個性を尊重する校風 若いエネルギーが未来を変える

硬式野球部

小川選手 侍ジャパン大学代表に 初選出

第43回日米大学野球選手権大会に出場する侍ジャパン日本代表に、本学硬式野球部の小川龍成内野手（健体3）＝写真＝が初選出された。本学学生が日本代表に選出されるのは、昨年行われた同大会に出場した清水昇投手（現東京ヤクルト）に続き2大会連続。

小川選手は、今年春の東都大学野球1部リーグ戦では遊撃手として開幕から先発に名を連ね、13試合に出場。攻守にわたってチームに貢献した。

日米大学野球選手権大会は7月16～21日に愛媛県（松山、今治の両市）、山口県岩国市、福島県郡山市、東京都新宿区の5都市で、大学侍ジャパンと米大学代表が全5試合を戦う。



柔道部

全日本学生柔道 善戦実らずベスト16

団体戦で大学日本一を争う全日本学生柔道優勝大会（全日本学生柔道連盟主催）が6月22～23日、日本武道館（東京都千代田区）で行われた。各地区の予選を勝ち上がった全国62大学が出場した男子団体戦（体重無差別7人制）で、国学院大学柔道部は、1回戦の埼玉大学、2回戦の名城大学ともに、主将の島田隆志郎選手（健体4）＝写真＝を中心に勝利をおさ

め、ベスト16入りを決めた。

平成29年度以来のベスト8進出を目指した3回戦は、同大会の予選となった東京学生柔道優勝大会で代表戦の末に敗れた明治大学と対戦。先鋒から4連敗を喫するなど0-6で屈し、昨年に続きベスト16となった。優勝は東海大学で4年連続24回目。



柔道部

東京ジュニア 66kg級武岡選手が優勝 5人が全日本ジュニアへ

東京都ジュニア柔道体重別選手権大会が7月7日、東京武道館（東京都足立区）で行われた。柔道部からは男子の各階級に16人が出場。男子66kg級では、決勝に駒を進めた武岡毅選手（日文2）が藤

本大晴選手（日本大学）を大外刈りの一本勝ちで破り優勝を果たした。このほか、男子81kg級で常見昂世選手（法2）が2位。男子60kg級で樋口誠二郎選手（法1）が、男子90kg級で齊本研アレクサンド

ル選手（健体1）が3位に入った。

3位以内に入った4人と昨年の全日本ジュニア優勝の相田勇司選手（法2）は、9月に行われる全日本ジュニア柔道体重別選手権大会に出場する。

未来につなぐ 学術資産研究

吉田家に伝来した徳川家康の文書

「徳川家康禁制」（吉田家文書）

京都・吉田神社の神職をつとめ、吉田神道（唯一神道）の宗家であった吉田家が伝えてきた古典籍・古文書は、本学で教鞭をとった宮地直一、西田長男らによって研究が進められていたが、昭和20年代には散逸した。国学院大学図書館は、この一部を所蔵している。

今回紹介する「徳川家康禁制」は、関ヶ原合戦の直後の慶長5（1600）年9月21日に徳川家康が下した禁制である。宛先が書かれていないが、吉田家に伝来した文書であるため、京都・吉田神社宛であるのは間違いない。

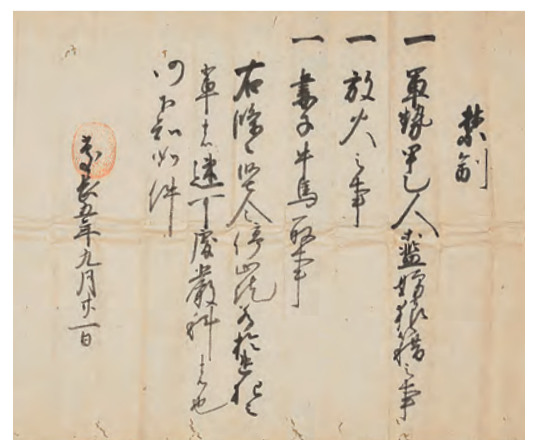
同月15日、美濃国（岐阜県）関ヶ原で石田三成ら西軍に完勝した家康は、軍を進め20日には近江国

（滋賀県）大津城へ入り、この地にしばらく逗留している。翌21日には、京都から多くの公家衆が戦勝祝いに駆けつけた。吉田神社の神主である吉田兼見の弟梵舜もこの日に家康の元を訪れ、兼見からの進物を献上しているため、この禁制は、その際に梵舜が要求して書いてもらったものだと考えられる。

東軍の先鋒は、19日にはすでに京都手前の山科にまで進出しており、京都の公家衆や民衆にしてみれば、まずは安全を確保することが重要だった。

本資料は、現在国学院大学博物館で開催中の「覇者たちの中世」（8月25日まで）でも展示している。

堀越祐一（本学兼任講師・研究開発推進機構客員研究員）



国学院大学図書館所蔵